

四中だより

No. 6

令和2年（2020年）6月19日

枚方市立第四中学校

校長 鶴島 茂樹

先日、アメリカで警察官に制圧された黒人男性が死亡する事件があり、これまでもあった黒人差別への怒りが噴き出し、大規模なデモが繰り返されていることを、みんなは知っているだろうか。

この事件に関連して掲載され、先生も少なからずショックを受けた記事があったので、ここで紹介しておきたい。

「普通とは何だろう」

* 俺は反抗心からか、「茶色のクレヨンを取り親の顔を書いた」・・・中略・・・プロ野球・楽天イーグルスのオコエ選手が15日、自らのルーツに関連して周囲から心ない言葉を受けた体験をツイッター上でつづり、大きな反響を呼んでいる。オコエ選手は東京都出身。ナイジェリア人の父を持ち、2015年の夏の甲子園では関東一高のベスト4の立役者となり、現在はプロ野球選手として活躍している。

話題となっている文章は、15日に投稿された。・・・中略・・・「おんなじ境遇の人、またその両親の少しでも励みになればと思い、炎上覚悟で投稿します。ただ自分のものすごく嫌だった過去をさらけだします」と切り出した。続いて、5歳ごろに保育園で絵本「みにくいアヒルの子」の読み聞かせの際、周囲にじろじろと見られた経験や、親の似顔絵を描く際に先生が「肌色で塗りましょう」と言った時、涙ながらに茶色のクレヨンで親の顔を描いたことなどがつづられた・・・中略・・・「生まれ変わって普通の日本人になれるかな、とか考えてた」と振り返って、「この普通とは何なんだろうと未だに考えてる」と記している。野球を始めてからの体験も明かした。少年野球時代に「先輩たちは肌の色をあざ笑いながら、ここでは出せないほどの汚い言葉の数々で罵られ、殴られる」という経験をしたこと。・・・中略・・・

活躍した高校野球時代にも「外人なんて高校野球で使うんじゃない」「甲子園には黒人はでるな」といった周囲の言葉を聞いたという。・・・中略・・・ツイッター上では、『日本ではアメリカほど肌の色による差別はないだろう』と安易に考えていました。ごめんなさい」といった声や「私も黒人と日本人のハーフです。幼稚園の時、肌色と自分の肌の色が全然違うと思いながらみんなに合わせて肌色を使っていました」といった声が寄せられている。・・・中略・・・多様なルーツをもつ人の文化について研究するケイン樹里安さんは、「オコエ選手の投稿を読んだ人は、人ごとのように『人種差別はひどい』という反応でとどまるのではなく、そういう社会を許してきたのは自分たちではないかと振り返ってほしい」と話す。（毎日新聞 6/18 付け朝刊より）

★通常の登校が始まって、忙しい毎が続いているが、出来れば社会の様々な問題にも目を向け、自分なりに受け止め考えることも、大切な学習だと思う。「学校」も社会とつながっている。このような差別の問題も、他人ごとではなく、学校という社会の一員であるみんなも考えてみてほしい。